

平成 29年9月 30日

公益財団法人庭野平和財団  
理事長 庭野 浩士 様

コード番号：16-A-056  
特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン  
河本千夏

## 平成 28 年度報告書

### 「社会の問題に対してアクションを起こす青少年を育成するためのワークキャンプ事業」

#### 1. 団体および実施事業の紹介（400文字程度で簡潔にご記入ください）

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、1995年に当時12歳のクレイグ・キールバーガー少年によって貧困や搾取などの過酷な環境から子どもを解放することを目的にカナダで設立された「Free The Children」を母体に1999年から日本で活動を始めた国際協力団体です。「子どもや若者は助けられるだけの存在ではなく、自身が変化を起こす担い手である」という理念のもと、途上国の貧困地域の自立支援と並行して日本の子どもや若者が国内外の問題に取り組み、変化を起こす活動家になるようサポートしています。

ワークキャンプでは、子ども達が、未来のリーダーという存在だけでなく、今日のリーダーとして、今アクションを起こす事をサポートをしています。

社会問題・世界で起きていることを学び、考え、話し合い、実際にボランティアを行い、様々なアクティビティやワークショップを通じて世界を変えるアクションを起こすスキルを身に付けるプログラム。熱い仲間と共に学び、キャンプ後も刺激し合う関係を作り出しています。

#### 2. 社会に伝えたい成果や課題（600文字程度で簡潔にご記入ください）

高校生の68.3%が「自分が参加しても社会は変わらない」という考えを持っている\*1という事実に対して、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、小・中・高校の青少年に対して国際問題の理解促進と身近に起きている問題理解、それに対する対処行動の知識を得て、「自分が参加しても世界は変わらない」という考えから子どもを解放し、青少年が課題に向けてアクションを起こす環境をつくることを団体の目的の1つに掲げています。

社会問題に対して、アクションを起こすことが‘当たり前’の世の中になり、しいてはより良い社会の実現につながる。そのために、まずは知ることとして、出張授業やwebサイト、ニュースの発信や書籍、教材の作成などを行ってきました。団体のもう一つの目的である、国内外の貧困や差別から子どもをFree(解放)する。という背景から、主にフィリピン・インド・ケニアに対して自立支援事業も行っており、常に現場の新しい状況を伝えることもできています。さらに興味を持った子どもたちにスタディーツアーやワークキャンプの機会を提供する事業も行うことが出来ました。

そうした想いや背景から、団体18年目を迎えた現在、延べ2万人の子どもたちが様々なアクションを起こし、8万人近い子ども達に出張授業を行うことが出来ています。

他方で、子どもの活動をするにあたり、大人のサポートは重要であり、今までほぼ子どもに注力をしてきているため、大人に対して、子どものアクションにたいする可能性やサポートへの理解も今後深める機会を沢山作っていきたいと考えています。

\*1 財団法人日本青少年研究所が2011年に行った調査

以上